

## 1 自殺者数の推移

我が国の自殺者数は、警察庁の自殺統計資料（以下「自殺統計」という。）によれば（第1-1図）、平成10年以降、13年連続して3万人を超える状態が続いている。

自殺者数は、昭和58年及び61年に2万5千人を超えたものの、平成3年には2万1,084人まで減少し、その後2万人台前半で推移していた。しかし、10年に9年の2万4,391人から8,472人（34.7%）増加して3万2,863人となり、その後、15年には統計を取り始めた昭和53年以降で最多の3万4,427人となっている。22年は3万1,690人で前年に比べ1,155人（3.5%）減少した。

男女別にみると、男性については、昭和58年に1万7,116人となって以降、平成3年までは減少傾向にあったものの、その後増加傾向に転じ平成10年に前年の1万6,416人から6,597人（40.2%）増加して2万3,013人となって以降は、2万人を超える状態が続いている。15年にはこれまでで最多の2万4,963人となった。22年は2万2,283人で、前年に比べ1,189人（5.1%）、ピークの15年に比べ2,680人（10.7%）減少している。

女性については、昭和61年に9,027人となってから、平成6年まではゆるやかな減少傾向にあったものの10年には前年の7,975人から1,875人（23.5%）増加し、これまでで最多の9,850人となり、その後は13年を除いて9千人台で推移している。22年は9,407人で前年に比べ34人（0.4%）増加している。

自殺者数の長期的な推移をみると、厚生労働省の人口動態統計（以下「人口動態統計」という。）によれば（第1-2図）、第二次世界大戦後は、昭和30年前後（29年～35年）に

自殺者が増加しており、33年の2万3,641人をピークとする最初の山を形成した後、40年代前半の高度成長期には1万4千人台前半まで減少した。その後は増加傾向となり、昭和50年以降は、2万人前後で推移していた。

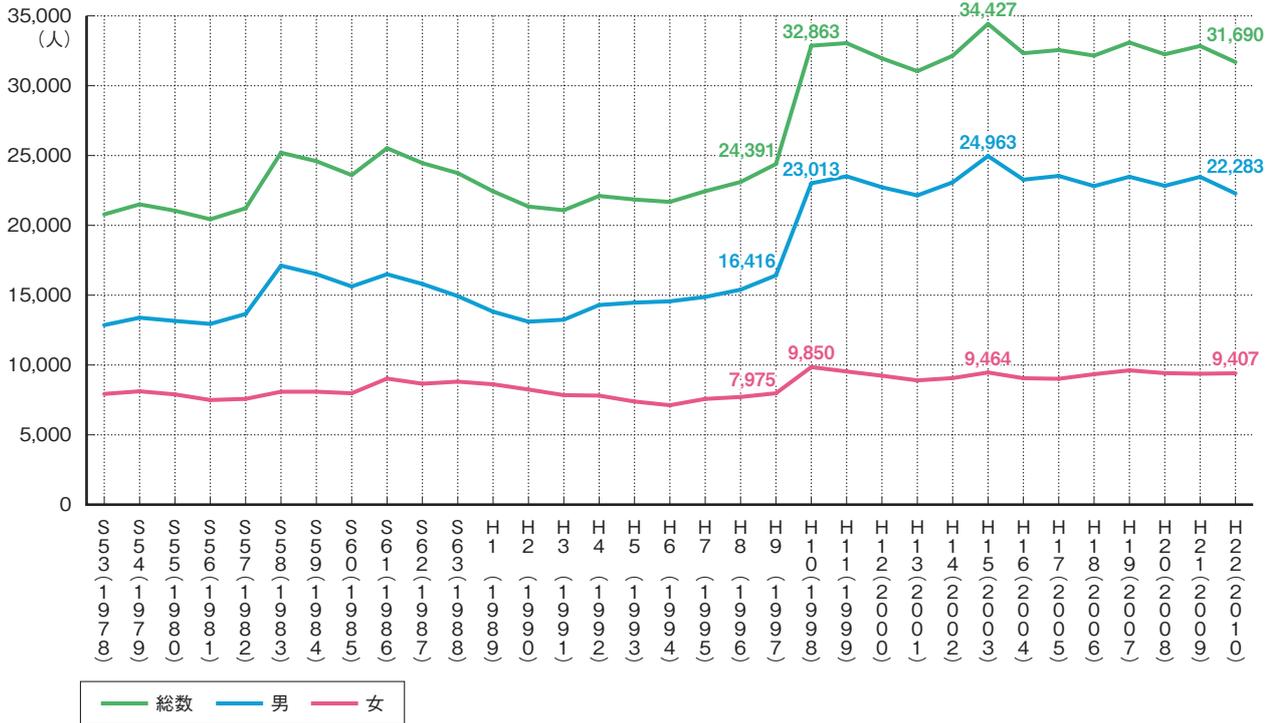
次いで、昭和57年の2万668人から58年の2万4,985人に増加した後、61年の2万5,667人をピークとする二つ目の山を形成した。平成3年には19,875人まで減少したものの、10年に9年の2万3,494人から8,261人（35.1%）増加して3万1,755人となって以降は、3万人前後の状態が続いている。21年は3万707人となっている。

男女別にみると、男性については、昭和30年前後に33年の1万3,895人をピークとする山、60年前後に58年の1万6,876人をピークとする山、平成10年以降の山と三つの山を形成している。平成10年には2万2,349人となり、その後は、連続して2万人を超える状態が続いている。15年にはこれまでで最多の2万3,396人となり、21年は2万2,189人となっている。

女性については、昭和30年前後に33年の9,746人をピークとする山を形成しているものの、その後は、61年の9,168人を除き、6千人台前半から8千人台の小幅な変動で推移した。平成10年は9,406人と大幅に増加したが、12年以降は、8千人台で推移しており、21年は8,518人となっている。

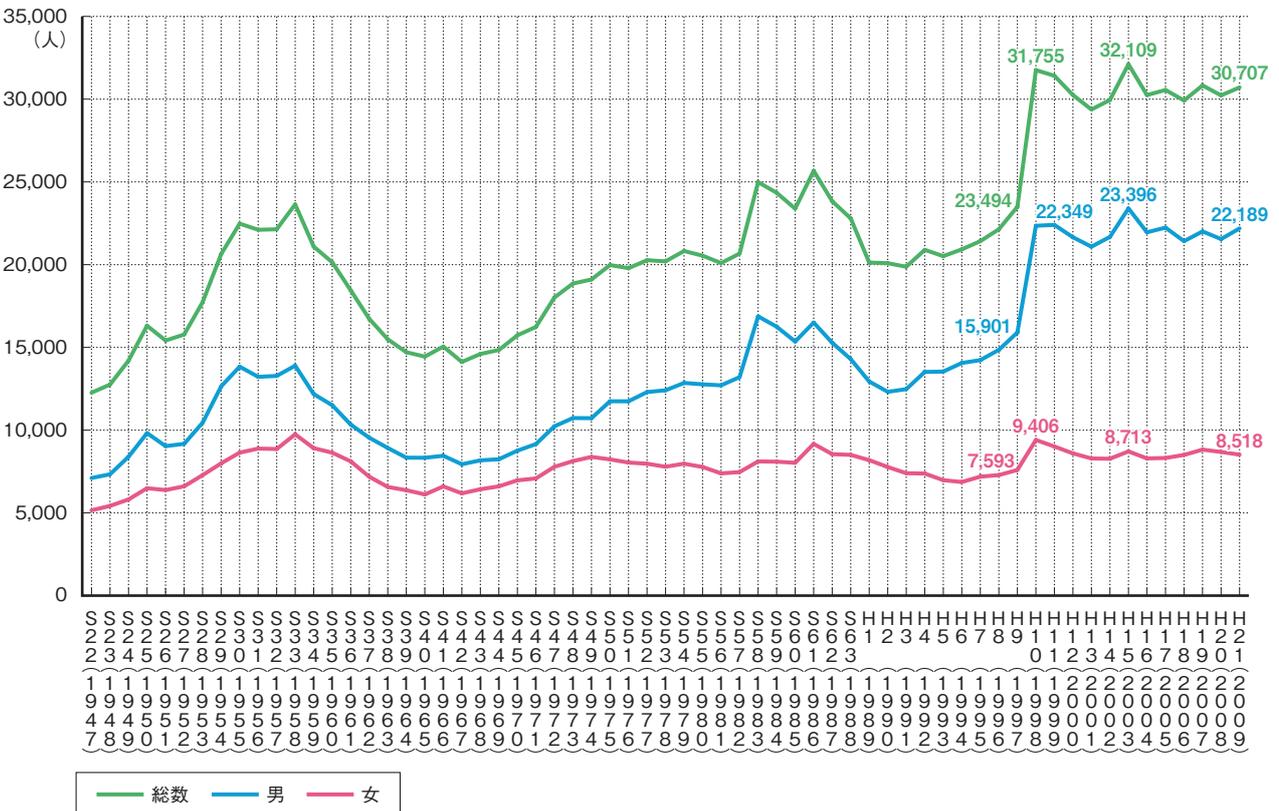
なお、調査対象範囲、計上時点の違いなどにより自殺者数の違いはある（詳細は6ページ「参考」を参照）が、人口動態統計の増減の傾向は自殺統計に一致している。

第1-1図 自殺者数の推移（自殺統計）



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

第1-2図 自殺者数の長期的推移（人口動態統計）



資料：厚生労働省「人口動態統計」